

## 手稲溪仁会病院 助産師外来を開設



手稲溪仁会病院看護部  
高橋ゆう子 師長



助産師 前川摩美さん

6月10日から、手稲溪仁会病院で助産師外来がスタートしました。

近年問題となっている産科医師と分娩施設の減少。解決のカギをにぎっているとされるのが助産師です。助産師は、医師と協力をし、自分自身の責任において、健康診断から保健指導、出産介助、産後健診まで一貫して関わることができます。その特徴を活かし、助産師が中心となって正常な妊娠・出産のケアに取り組むのが助産師外来です。

いま手稲溪仁会病院では、27名の助産師が働いています。同病院が助産師外来の開設をめざしたきっかけは、「お母さんに安心して出産してほしい」という助産師の強い想いでした。

「お腹に赤ちゃんを抱えるお母さんには、日々の生活のこと、赤ちゃんを迎える家庭の環境についてなど、相談したいことがたくさんあるのです。だから定期健診でも、診断して終わりではありません」

そう話すのは、手稲溪仁会病院 看護部で産婦人科を担当する高橋ゆう子 師長。時間が短く限られてしまう医師の定

期健診に比べ、助産師外来では、お母さんの悩みや疑問を受けとめ、アドバイスできるだけの時間が確保されています。同病院の助産師外来による定期健診は、希望者に対して、医師による健診と交互に行うスタイルです。

助産師の前川摩美さんは、妊娠から出産までの40週をマラソンに例えます。

「出産までの道のりは、長いマラソンのようなものです。助産師外来は、スタートからコミュニケーションを続けてきた助産師が、ゴールまで伴走します。そうして得た経験を、次のお母さんに渡していきたいです」

もっと近くなる助産師とお母さんの距離。高橋師長は、助産師のコミュニケーション能力や技術力、やりがいの向上にも期待を寄せます。

助産師は、これまでも出産と深く関わってきながら、認知度はあまり高くありませんでした。これからの目標について「ぜひ助産師外来にかかりたい」という声が増えてくれると嬉しい」と2人は声を弾ませます。

## 5月12日は「看護の日」 溪仁会グループ各病院でイベントを実施

5月12日は、近代看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日。そのことにちなみ、5月12日は「看護の日」12日を含む日曜から土曜までの1週間が「看護週間」と呼ばれます。この期間中、日本看護協会が掲げる「看護の心をみんなの心に」という言葉を共通テーマに、日本全国で看護の心を育むための活動が行われています。溪仁会グループでも、手稲溪仁会病院、札幌西円山病院、定山溪病院が、それぞれイベントや取り組みを行いました。



### 【手稲溪仁会病院】ふれあい看護体験

手稲溪仁会病院は5月12日に「ふれあい看護体験」を実施しました。札幌手稲高校から看護系の職業をめざす生徒を迎えて行われるこの取り組みは、今年で17年目。参加者は3年生9名です。消化器科、整形外科、産婦人科、小児科の4病棟に分かれ、足浴をはじめとしたケアや、新生児とのふれあいなどを体験。終了後には、つきそった看護師長から「未来の看護師」に向けて、期待のこもったエールが送られました。

### 【札幌西円山病院】

#### 「ふれあい健康相談」リラクゼーションコーナーを実施

5月10日から14日までの5日間にわたって「看護週間」のイベントを開催しました。



正面玄関受付ロビーを会場に、血圧、血管年齢測定、体成分分析(体重・体脂肪・筋肉量・体水分)を測定。看護師が数値改善のためのアドバイスをしました。

また、今回は院内のデイルームに特設のリラクゼーションコーナーを設置。心安らく音楽とアロマの香りの中、それぞれ技術をもった看護師やボランティアが、タクティールケア、ヘッドスパ、リフレクソロジーを行い、期間中たくさんの方が訪れていました。

### 【定山溪病院】ふれあい看護体験を実施

5月11日、定山溪病院では、北海道札幌南陵高校の2年生18名、3年生6名の計24名の生徒を迎え、看護週間恒例の『ふれあい看護体験』を行いました。

今回参加したのは、いずれも看護・医療に関心をもち将来就職を希望する生徒。入院患者さまへの食事介助、手浴・足浴のケアを実際に体験。

お話しするときの目線の高さや、笑顔や声かけの必要性など、担当看護師からアドバイスを受けながら、少しずつ患者さまの笑顔を引き出すことができるようになった生徒たち。

現場ならではの「実感」と「発見」を胸に、進路への思いを新たにしていました。



## 元・日ハム ヘッドコーチ白井一幸さんを講師に職員研修会を開催

元・日本ハムファイターズのヘッドコーチで野球評論家の白井一幸さんを講師に、溪仁会グループの職員を対象にした研修会を開催しました。



溪仁会グループでは、職員を対象にした研修に積極的に取り組んでおり、各界のオーソリティーを招いての講演会を年1回のペースで開催し、研鑽を積んでいます。

今回のテーマは「個を生かす、チームを伸ばすメンタルコーチング」。

二軍監督、ヘッドコーチとして選手育成にあたった経験をもとに、指導する側の心構えと個人のやる気を引き出すコミュニケーション法などを中心にお話しいただきました。

グループ内14の施設から約500名の職員が参加。白井さんのユーモアを交えた講演に、会場一体となって盛り上がりました。

## 札幌西円山病院 札幌中央区危険物安全協議会から表彰

札幌西円山病院が、4月20日にロイトン札幌で行われた「札幌中央区危険物安全協議会 平成22年度定期総会」で、「燃料消費施設関係」の部における優良事業所として、表彰を受けました。



札幌西円山病院は、同協議会に登録してから28年にわたり、危険物の取扱いに関する災害防止や保安技術向上



に貢献してきました。今回の表彰は、その実績が評価につながったものです。

## あおばデイサービスセンターで 外出レクリエーション



あおばデイサービスセンターでは5月、6月と外出レクリエーションで札幌市白石区の川下公園まで遠足に出かけました。

川下公園への遠足は、草花が一斉に開花する毎年の恒例行事。今年は3回に分かれて出かけました。

第一回目は5月25日に行われ、8名のご利用者ボランティア、職員が参加しました。

この日はあいにくの小雨模様。それでも新緑を眺めながらの特製お弁当ランチや屋内施設の散策、売店でお土産を買ったりと2時間あまりの楽しいひと時を過ごしました。

## コミュニティホーム白石 ホームページで「リハビリお役立ち講座」を公開

コミュニティホーム白石では、施設所属のリハビリテーションスタッフによる「リハビリお役立ち講座」を、同施設ホームページ上に掲載しています。



理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、それぞれ専門の立場からテーマごとに日常の動作や生活上の注意する点などを、イラストなどを交えてわかりやすく解説。今後も随時追加の予定です。

コミュニティホーム白石 「リハビリお役立ち講座」  
<http://www.keijinkai.com/c-shiroishi/015/>